

編集後記

本研究所は2020年4月より「池田大作記念創価教育研究所」として新たに出発することとなった。創価大学創立50周年を機に、世界各地の研究者とのネットワークを構築し、創立者の思想・実践及び創価教育に関する研究をさらに推進していく。それに先立ち、2019年5月28日にはアメリカ・デポール大学の池田大作教育研究所と学術協定を調印した。今後、「第11回池田大作思想国際学術シンポジウム」「世界市民教育に関するシンポジウム」の開催も予定されている。創立者に関する研究の国際的な展開に伴い、研究成果発表の場としての本紀要『創価教育』の役割も、ますます重要なものになっていくだろう。

新たな出発を前に、本研究所は2019年度も、創価教育の歴史と思想に関する研究を着実に進めてきた。その成果として、『評伝 戸田城聖（上）』が2019年12月2日に第三文明社より発刊された。この本は2017年刊行の『評伝 牧口常三郎』に続き、本研究所が調査・収集した資料を提供し、最新の研究成果を盛り込んで編纂されたものである。創立50周年の記念事業として刊行される『創価大学50年の歴史』（仮題）の編纂も山場を迎えている。そしてこの『創価教育』第13号も、以下に紹介するように、創価教育の歴史的・思想的背景や創立者の提言・理念に関する考察など、多岐にわたるテーマを取り上げ、充実した内容とすることができた。

冒頭には、デイム・クレア・バーチンガー氏による卒業式での祝辞、創大祭・白鳥祭記念「創価栄光の集い」におけるケネス・M・プライス氏の記念講演の2本を収録した。いずれも、創価大学生に対する満腔の期待が込められた講演である。

論文として、叢暁波所員による「時代の精神状況から見た池田大作幸福思想の三つの領域」を掲載した。また、岩木勇作氏による研究ノート「創価教育学体系の教育学的論理からみた宗教の必要性」を収録した。それぞれ、創立者の思想と牧口創価教育学のテキストを深く読み込んだ研究の成果となっている。

次に、2019年度に行われた創価教育に関する講演の中から5本を収録した。加藤節氏の「南原繁の戦後体制構想—敗戦・憲法・教育—」は、2019年6月17日に本研究所が開催した講演会の記録である。戦後に東京大学総長を務め、「人間革命」を提唱した南原繁の思想について論及している。行安茂氏による「デューイの成長論とアクティブ・ラーニング—衝動、試行錯誤、コミュニケーション—」も、2019年11月4日開催の本研究所講演会の記録であり、牧口常三郎の創価教育学に大きな影響を及ぼしたジョン・デューイの哲学を論じている。さらに、2019年度夏季大学講座における講義のうち、創価教育に関連する内容を取り上げた3本を収録した。「戸田城聖先生の『推理式指導算術』に学ぶ」（鈴木将史教授）、「『平和の文化』と人間の安全保障—池田・チョウドリ対談を読む—」（中山雅司所員）、「創立者池田大作先生の日中友好実践と『4つの主義』」（高橋強教授）である。

中国における「池田思想」研究の動向についての報告は、本号で16回目を迎えた。2019年度に中国の各地で開催された池田思想研究の学術シンポジウム等のほか、新た

に設立された池田大作研究機関、池田研究の成果を紹介している。また、有本昌弘氏より『評伝 牧口常三郎』の書評が寄せられた。さらに資料紹介として、第12号に引き続き、斎藤正二氏（創価大学名誉教授）の遺稿である「『人生地理学』補注」補遺（7回目）を収録することができた。

おわりに、今回の紀要に原稿をお寄せ下さった諸先生方、そして紀伊國屋書店をはじめ御協力・御尽力いただいた方々に、この場を借りて篤く御礼を申し上げたい。

2020年3月（T.S.）